

▶ **特集** ・特別支援教育・相談グループ重点事業 2
・研修・研究グループより

早期からの、途切れのない特別支援教育をめざして

教育支援課 葛西 文雄

子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、それに対応した適切な指導及び必要な支援を行うこと。これが、特別支援教育の理念です。教育支援課は、その理念を実現するための環境の整備・充実を、ミッションのひとつとしています。

本市では、第1次四日市市特別支援教育推進計画(H16～18)、第2次推進計画(H19～21)に基づき、①校内委員会の設置、②実態把握の実施、③特別支援教育コーディネーターの設置や地域特別支援教育コーディネーター・巡回相談員の派遣、④個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成・活用、⑤教職員研修など教員の専門性向上のための取り組み、⑥介助員・特別支援教育支援員の配置など、その体制整備や人的支援の充実等に努めてきました。

今後は、早期からの教育相談・支援、就学指導の充実、就学後の適切な教育及び必要な教育的支援全体を、「一貫した教育支援」ととらえ直し、乳幼児期から中学校卒業まで「途切れのない支援」をしていくことが課題であると私たちは考えています。

本年度、みなさんにお渡しした「四日市市校園内特別支援教育体制作りサポートブック」は、この途切れのない支援を行うための「校園内体制を整える」ことに焦点化して作成したものです。目次を一読いただき、園・学校の実情に合わせてご利用ください。

また、平成19年度から、教育、福祉、医療、保健(健康)、労働等の関係機関が連携し、より適切な教育的支援を行うことを目的として、「四日市市特別支援教育連携協議

会」を設置しています。今月中に、連携協議会の成果物である「相談支援ファイル」を皆さんにお届けすることが出来ます。このファイルは、特別な教育的支援の必要な子どもについて、乳幼児期から、その子の発達特性、生育歴、相談・支援の記録や指導に役立つ情報等を、保護者やそれぞれの関係機関が記入していくものです。

私たち関係機関が、子どもの発達の経過を共通理解し支援の手立てを共有することで、子どもや保護者は一貫したサポートを受けることができます。子どもと保護者、そしてそれぞれの関係機関を相互になく「ツール」は何かないかと考え、連携協議会が送り出した「相談支援ファイル」です。是非、ご利用ください。



教育支援課 特別支援教育・相談グループ

1

四日市市校園内特別支援教育体制作りサポートブック

特別な支援を必要とする子どもたちの教育をすすめていく上で、担任や担当する者に任せきりでは効果は少ないと考えられます。校内委員会の設置や特別支援教育コーディネーターの校務分掌への位置づけはできていますが、それが実際にうまく機能しているかが課題です。

本サポートブックでは、校園内体制がうまく機能している学校の例、上手な地域特別支援教育コーディネーターの使い方、園→小学校・小学校→中学校・中学校→進路先への引き継ぎにおいて確認したいことなどが具体的に書かれています。また、校園内でOJTがすすめられるよう教育センターで行われた研修会の資料や関係諸機関との連携についても掲載されています。

本サポートブックが校園内体制作りの一助となることを願っています。



2

地域特別支援教育コーディネーター ※以下地域 Co

平成17年度3名から始まった地域 Co も5年目になります。本年度は、次の先生方をお願いしています。

A	ブ	ロ	ッ	ク:	三重小	伊藤	二	三	郎	先生
B	ブ	ロ	ッ	ク:	羽津小	杉本	恵	里	子	先生
C	ブ	ロ	ッ	ク:	泊山小	近田	充			先生
中学校北部ブロック:					富洲原中	森	千	佳		先生
中学校南部ブロック:					南中	佐藤	英	子		先生

(地区割りにについては、「掲示板」の「データベース」に掲載してある「四日市市特別支援教育資料集」をご覧ください。)

地域 Co は、校園内体制を整えるために配置されています。校内委員会で話し合われた内容、これまでの支援、「個別の教育支援計画」などを基に、担任だけでなく関わる職員も入って事後の話し合いができればと考えています。

訪問時間も限られていますので、要請のポイントを絞り、依頼してください。

3

通級指導教室

ことばの教室(言語通級指導教室)

◆中部西小学校・・・3教室 ◆桜小学校・・・1教室

話し言葉に障害がある通常学級に在籍する児童を対象としています。1対1を基本とし、障害をとりのぞいたり軽くしたりするための指導を行っています。個々に応じた指導内容を作りながら、人と楽しくやりとりできることばの力を育てます。

ほっとルーム(情緒等通級指導教室)

◆桜小学校・・・1教室

学校のいろいろな場面で適応が難しい通常学級に在籍する児童を対象としています。その子に応じた個別指導を基本とし、安定した気持ちで過ごせるように、静かで刺激の少ない教室で学習します。個々の児童の能力や適性に応じた指導を通して、生き生きとした楽しい学校生活を送れるように支援します。

※両教室とも通級制で、普段は在籍している学校で学習し、決められた時間に通級して指導を受けます。※相談の申し込み・通級のための手続きについては、通級指導教室のリーフレットをご覧ください。



四日市市適応指導教室（ふれあい教室）

平成 21 年度より、第 1・第 2 適応指導教室を統合し、新たな組織・体制のもと、不登校に関する専門的な指導・相談等の支援施設として「適応指導教室（ふれあい教室）」（以下、ふれあい教室）を設置し、不登校対策支援事業を総合的に行います。

今回は、ふれあい教室の支援の流れをご紹介します。

①見学

ふれあい教室の概要を説明します。また、学校との情報交換を承認していただきます。



②相談・プレイセラピー・個別指導

まず、ふれあい教室で指導員やセラピストとの関わりを中心に、遊びなどを通して自分の気持ちを表現したり整理したりしていきます。



自分の気持ちが整理できるようになってきたら、勉強も少しずつ始め、集団活動に入る準備をしていきます。



校内支援会議

支援会議

学校でできることとふれあいのできることを確認等

家庭へ

定期的な家庭訪問

- ・子どもの様子の確認
- ・学校の様子の伝達等

ふれあいへ

情報提供

- ・家庭訪問での様子
- ・学校行事の情報提示等

学校

③集団適応

集団適応では、小集団で、日課に沿って授業や集団活動を行っていきます。集団に適応していくために必要なスキルも学んでいきます。



集団活動の中には、いろんな経験ができる「体験活動」もあります。

状態に応じて、少しずつ学校に登校します。状況により、指導員が登校支援を行います。

④学校復帰

子どもの様態は様々ですが、それぞれの子どもがそれぞれのペースで成長しています。当初は無表情だった子どもが笑顔をよく見せるようになったり、集団に入ることを拒んでいた子どもが誰よりも集団活動を楽しみにしているようになったり、「学校にはもう戻らない」と言っていた子どもが学校に行き始めたり・・・等々。

ふれあい教室は、子どもたちがいろいろな経験や体験を通して、自信をつけ、新しい一歩を踏み出すエネルギーを蓄えるところです。子どもの状態により、一概に上記の通り進んでいくとは言えません。学校と連携しながら、共に子どもにとってよりよい支援を進めていきたいと考えています。よろしくお願ひします。

★「教師力向上サポートブック」で自己研修スタート!

「教師力向上サポートブック」は、もうご覧になりましたか? この手引書は「自己研修を進める道しるべ」=プログラムです。したがって、これを読んだら「教師力が向上する」魔法の冊子ではありません。“サポート”ブックですから。



目の前の子ども達を「健やかに成長させたい」と願う我々教職員は、あらゆる力を総動員し、一つの授業や行事を創り出します。そして、その際には「今、子ども達にとって必要な環境は何か?どんな力をつけさせたいか?」を明確にします。まずは、大切な子ども達一人一人のようすや集団の状態を「分析・把握」することからスタートしますよね。

このサポートブックの示すプログラムは、子ども達の成長を願って実践を創り出す、こういった日々の流れと同じです。ただし、**成長の対象はあなた自身**。多忙だからこそ、このプログラムに乗って「分析」=自己の「気づき」からスタートする自己研修を進めましょう。

もっとも重要なステップは STEP1「気づき」

自己チェックをし、一年を見通した上で、自分が伸ばしたい力や重点的に取り組んでみたい課題を挙げてみましょう。人が「行動」を始めるには「内発的な動機」が最も効果的であると言われています。この「気づき」が一年間のあなたの研修の原動力。さあ、始めましょう!

★授業におけるICT活用の第一歩・・・ミニ研修会からスタート

短時間でできる
ミニ研修会を
しましょう!



- 参加できる人から。 ○ 3～4人のグループワークで。
- まずは、機器をつないでみるところから。
- どの場面で活用できるか意見を交流する。

【 小山田小学校研修会の様子から... 】



プロジェクトと実物投影機をつなぐと...



国語デジタル教科書の使い方を確認...
「子どもたちの顔が上がるね」

ICTサポーター(小学校のみ)を大いに利用しましょう・・・

- ・ 普通教室での機器の準備をお願いする。
- ・ ICTサポーターが来る日には、教室でICTを使った授業を必ず入れるように計画する・・・など。